

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3170201457		
法人名	医療法人社団 日翔会		
事業所名	グループホームつつじ		
所在地 (電話番号)	鳥取県米子市米原6丁目9番地23号 (電話)(0859) 37-5220		
評価機関名	(有) 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル		
訪問調査日	平成21年9月18日	評価確定日	平成21年10月15日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤	人, 常勤換算 6.6

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1000 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	61 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

米子市街地の米原地区に複合型施設として設立4年目を迎えるグループホームつつじは、2階建て2ユニット、デイサービスが併設されている。地域密着型サービスとして、自ら発信し続けている結果、地域と共に在るホーム、地域に見守られているホームに限り無く近づいている。初夏に開催されたつつじ祭りには地域住民も含め130人の参加があった。ホームと地域住民のドライブのレクリエーションも実施されている。昨今、災害時の施設の被害に対する不安が尽きないが、こつつじでは、緊急災害時における地域住民との支援体制が構築されている。職員体制は、若いスタッフが多く、高齢者介護について学びの途中ではあるが、誠実でかつ真摯な姿勢で利用者へ接している。利用者の表情は、大変おだやかあるいは、にこやかで、管理者が一番大切にしていることが実現している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 外部評価について、自己評価に一部の職員が関わっていたが、今回新任の職員も含め全職員が自己評価のプロセスに取り組んでいる。評価の意義に関しても、一人ひとりが理解しており、評価の有効な活用が認められる。家族への報告について、利用者の様子、職員の異動など、こまやかに対応した結果、家族の安心と満足につながっていると見える。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価について、新任の職員も含めて職員全員が評価の意義を理解し、積極的に取り組んでいる。自己評価についても項目ごとに周知されている。評価結果についてもミーティング、運営推進会議において報告、改善に向けて検討されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2つの区それぞれの自治会長、老人会代表、地域包括支援センター、利用者家族、施設職員の参加者で構成されており、2ヶ月に1度開催されている。活動状況の報告、行事の相談、意見交換が行われ、ホームの質向上及び地域との橋渡しの役割を担っている。本会議が、グランドゴルフの実施、避難訓練の住民協力、つつじ祭り、つつじサロンの盛況などに結びついている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱の設置、苦情受付の窓口の明示がある。意見、苦情があった場合は、すみやかに対応し、原因と対策を話し合っている。内容と回答・対応策について、玄関に掲示する場を設けている。意見・苦情問題については、ユニットに関わらず、職員に会議で周知・検討が行われている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入、地域に溶け込む取り組みを重ねている。自治会長の協力を得て、地元の人々との相互交流、緊急避難時の応援体制も構築されている。昨年、地域の介護相談コーナーとしてスタートしたつつじサロンが今年は、ドライブなどレクリエーション活動に拡がりを見せている。公民館活動への利用者の参加も実現。高校生のボランティア

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時に作成した基本理念があり、基本方針には地域と共に暮らすことをうたっているが、地域密着型サービスとしてスタートした後、新たな見直しは行われていない。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の唱和、職員一人ひとりが携帯することにより、常に理念を身近に意識し、自身のケアの指針としている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入、地域に溶け込む取り組みを重ねている。自治会長の協力を得て、地元の人々との相互交流、緊急避難時の応援体制も構築されている。昨年、地域の介護相談コーナーとしてスタートしたつつじサロンが今年は、ドライブなどレクリエーション活動に拡がりを見せている。公民館活動への利用者の参加も実現。高校生のボランティア活動も定着している。		利用者が公民館活動等、挑戦する際に、ハード面を含み課題となる箇所は地域に対し、声を出して協力を要請していくのも一つの方法と思います。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価について、新任の職員も含めて職員全員が評価の意義を理解し、積極的に取り組んでいる。自己評価についても項目ごとに周知されている。評価結果についても報告、改善に向けて検討されている。法人内においては、こやまケア行動指針を基に年二回個人の評価が実施されている。		評価の結果について、インターネットをつかえない家族の方達にも、自由に閲覧していただけるよう工夫されるとよいでしょう。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2つの区それぞれの自治会長、老人会代表、地域包括支援センター、利用者家族、施設職員の参加者で構成されており、2ヶ月に1度開催されている。活動状況の報告、行事の相談、意見交換が行われ、ホームの質向上及び地域との橋渡しの役割を担っている。本会議が、グランドゴルフの実施、避難訓練の住民協力、つつじ祭り、つつじサロンの盛況などに結びついている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターを通じ、地域の介護予防教室の実施について話し合いが行なわれ、地域の介護予防をサポートをする意向を伝えている。		市からの協力も問われる項目ではあるが、市の担当者に対し、外部評価についての意見の抽出や、ホームあるいは、地域密着型サービスとして抱える課題などを提議するなど双方の継続的なはたらきかけが必要と思います。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	事業所で発行する広報誌とは別に、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動(写真入り)等について、家族等に定期的及び随時に報告が個々にされている。面会時はもとより、健康状態に異変が見られる場合はすみやかに連絡、相談を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情受付の窓口の明示がある。意見、苦情があった場合は、すみやかに対応し、原因と対策を話し合っている。内容と回答・対応策について、玄関に掲示する場を設けている。意見・苦情問題については、ユニットに関わらず、職員に会議で周知・検討が行われている。		法人として、意見や苦情に対し、今後、文書や運営推進会議で報告することをすすめていく姿勢が伺えた。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を大切にしているが、異動や退職がやむを得ない場合、利用者のダメージを最小に抑える努力をしている。不穏になることが予想される利用者には臨機応変に対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH協会の相互研修、外部研修など職員のレベルに合わせて受講することができるよう支援体制を整えている。法人内において、事例研究発表会が毎年行われ、職員の成長に寄与している。上期、下期別の目標管理システムにおいて、個人目標計画書にレベルアップのための受講予定が立てられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会の相互研修など、県や地域で開催される研修会、講習会への積極的な参加を促している。その機会に他事業所との交流で得た視点をホームに持ち帰り、活かしている。直近では、環境整備の面で学んだことを取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談の段階から利用者、家族に対してホームについて説明されています。いきなりサービスを開始するのではなく職員が訪問したり、見学に来てもらい場の雰囲気や、職員、利用者に馴染んでいただけるよう家族等と相談しながらされています。		希望者には体験利用などをされると、より安心してサービス利用ができるかもしれません。一層の工夫に努められることを期待します。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節行事や家事、野菜作りなど様々な場面で職員が利用者から教わる場面がある。利用者から、ねぎらいの言葉をかけてもらう、人生の先輩として結婚観や死生観の話や聴く、など共に暮らす中でお互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者の思いや希望が実現できるように、利用者のつぶやきを書きとめた「うさ耳ノート」の活用を継続中。お鮎が食べたいとのつぶやきから、鮎職人が握る鮎バイキングが実現。所望する物品があれば買い物に出かけるなど利用者の個別の意向に柔軟に対応する姿勢がある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	暫定プランから1ヶ月後、またそれ以降について、関係者の意見から課題を話し合い、介護計画に活かしている。利用者が担当者会議に参加するケースもある。家族には電話により希望、意見を聞いている。日々の職員の気づきを記録した「援助ノート」や「うさ耳ノート」、毎日の計画実施記録、毎月のモニタリングを反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体の変化や、本人・家族からの新たな要望があった場合には、期間以前に介護計画の見直しを行っている。経過記録に介護計画を添付している他、各プランについての日々のチェック表があり、介護計画の適切な見直しにつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行きつけの美容院への支援をはじめ、希望の品物を買う為の外出、家族に代わり隣の市への受診介助等、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援がされています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望された病院がかかりつけ医になっており、診察に来てもらえる医院が5ヶ所あります。認知症の専門医とも関係が築かれ相談や適切な治療が都度受けられています。受診予定表、連絡表が作成されており、適切な医療が受けられるように支援の工夫がされています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態に変化が見られた場合は、医師、看護師、家族、管理者及び職員を交え話し合い、家族の要望を踏まえながら対応方針がだされています。急変時の連絡網も整備されています。		ターミナル期について職員が継続して学ぶことのほか、折にふれてホームの方針を伝え、家族と意識確認をとることも検討されるのも一つの方法ではないでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねることのないよう禁句集を作成したり、個人ファイルは氏名でなく部屋番地を記入すると、独自の取りくみがみられます。口の周りに付いた食べ物を職員がさりげなく拭いておられ、日々の対応にも配慮されていることが伺えます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくり眠りたい人は時間をずらして食事をして頂いたり、買物に行きたい方、併設のデイサービスのリハビリ体操に参加したい方等、その日の希望に添うよう職員体制に工夫しながら、支援に努めておられます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットごとに利用者と相談し立てられた献立は、法人の栄養士が目を通しアドバイスが得られています。朝食はパンかご飯が選択でき、希望に応じて3食おにぎりを提供する等細やかな支援がされています。利用者の力を活かしながら準備や片付けを職員と一緒にし、同じ食事がとられています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴の希望に対応できるように勤務を見直し、毎日や夜間入浴の支援があたりまえのようにされています。入浴の嫌いな方は気の合う利用者と一緒に楽しんでいただいたり、同性介助を希望される利用者のために勤務も配慮されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の手伝い、日めくり、掃除、洗濯たたみ、新聞紙たたみ等日々の役割をはじめ、漬物、吊るし柿、野菜、花植えなど一人ひとりの生活歴や力を活かした楽しみごと、気晴らしになるよう場面をつくり、支援に努めておられます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の「散歩コース」を編み出してオリジナルの「お散歩マップ」があり、天気の良い日には、地域の住民と触れ合うことができている。ドライブの好きな利用者には、日常的に車で外出ができるよう(併設のデいの送迎に同乗したり)支援をしている。利用者の希望に応じ、外食、買い物にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の経緯から、表玄関は施錠をしていたが、日中開錠を試み、状況を記録し話し合い検討をしている。今後も継続してゆく予定である。施錠時、利用者が外に出たい時は、自由に出かけられるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回地域住民と消防の協力を得て、避難訓練及び消防訓練が行われている。2階のユニットの利用者も非常階段を使用して非難することで、より「実際」を想定した訓練となっている。緊急時における地域住民との連絡体制ができている。備蓄について、水及び、非常食のリストがあり、消費期限も把握できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを基に職員が作成した献立は、法人の管理栄養士が改善を加えている。食事と水分摂取量は記録され、申し送りをして適切に調整されている。食事の形態は、刻み、とろみ食の他、小さなおむすびなど、利用者の状態に合わせて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとってより良い環境整備を行う視点から、ダイニングルームにくつろぎのスペースが創られ、そのスペースでテレビを楽しむ利用者も見られた。童謡のBGMが流れ、それに合わせて口ずさむ利用者が見られた。ダイニングに水槽が置かれ、廊下や談話室などにも利用者の手作り作品や飾られ雰囲気作りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入室させていただいた居室には、ご主人のご位牌が置かれていたり、家族の用意したインテリアファブリックや雑誌などで利用者にとって居心地のよい居室作りがなされていた。ビタミン放出する換気扇など空調も適切に管理されている。		